2011 年度 小委員会活動成果報告

（2012 年　2 月　6 日作成）

小委員会名	バイオクライマティックデザイン小委員会	**主 査 名**：長谷川兼一 **就任年月**：2011 年　4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学委員会 （熱環境運営委員会）	**委員長名**：佐土原 聡 **主 査 名**：宿谷　昌則
設　置　期　間	2009 年　4 月　　～　　2013 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	本小委員会では，持続可能な建築・都市の実現をめざして，さまざまなパッシブ要素技術に関するデータベース化，住まい手の環境調整行動を考慮した建築環境システムの評価手法の構築を行いつつ，地域気候に適した自然環境ポテンシャルの有効な活用策について検討する。 **初年度（2009 年度）**：バイオクライマティックデザイン(以下 BD)に関する事例(ハード面）を整備し，事例収集を行う。 **2 年度(2010 年度）**：BD とヒトの環境調整行動と関連の検討，BD 出版物の作成。 **3 年度（2011 年度）**：BD 出版物の発刊，関連シンポジウム・WS を開催。 **最終年度（2012 年度）**：設計者や住まい手を対象とした環境教育，住まい手のハード面への影響の検討。WS などの開催。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：有り 主査：長谷川 兼一（秋田県立大学） 幹事：宇野 朋子（電力中央研究所），築山 祐子（旭化成ホームズ） 委員：金子 尚志（エステック計画研究所），北瀬 基哉（環デザイン舎），小玉 祐一郎（神戸芸術工科大学），斉藤 雅也（札幌市立大学），宿谷 昌則（東京都市大学），菅原 正則（宮城教育大学），鈴木 信恵（東京都市大学），須永 修通（首都大学東京），高間 三郎（科学応用冷暖研究所），廣谷 順子（みっつデザイン研究所），細井 昭憲（熊本県立大学），リジャル H.B.（東京都市大学）	
設置 WG （WG 名：目的）	なし	
2011 年度予算	190,000 円	**ホームページ公開の有無**：有り **委員会 HP アドレス**：http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s14/

項　　目	自己評価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	1．設計のための建築環境学 ～みつける・つくるバイオクライマティックデザイン
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	1．第 41 回熱シンポジウム「みつける・つくるバイオクライマティック建築」 （資料名）同上　　参加者数　95 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	1．2008 年度は、自然のポテンシャルを活かした建築設計の理解を深める指南本を製作するために、「バイオクライマティックデザインブック作成準備 WG（以下、BCD 出版準備 WG、主査：長谷川兼一（秋田県立大学）を設置し、2009 年度まで活動を継続した。2010 年度は，BCD 出版準備 WG を企画刊行運営委員会・バイオクライマティックデザインブック刊行小委員会と改め、2011 年 5 月に出版することができた。

	２．出版本の紹介を兼ねて 2011 年 11 月に熱シンポジウムを企画した。札幌市内での開催であったが 95 名の参加を得，活発な議論をすることができた。 ３．今年度の小委員会を 6 回開催した。小委員会で BCD の設計・研究事例を収集し，適宜，最新情報の話題提供としてプレゼンテーションを行った。 ４．小委員会専用ウェブサイトの更新頻度を高めた。また，学会以外に小委員会ブログも開設し，関係各位との情報交換を活発化させるよう整備した。
委員会活動の問題点・課題	１．熱シンポジウム企画の議論を優先したために、先端研究や建築事例・プロジェクトの話題を披露し議論することに時間を費やすことができなかった。年間の活動計画を明確にして、それに基づいて委員会を開催するよう努める必要がある。 ２．小委員会メンバーは北海道から九州まで各地に在住している。旅費の工面が難しく欠席を余儀なくされる場合もあり，予算を充実させる必要がある。また，インターネット環境を活用した会議開催についても検討する必要がある。